

【プログラム名：次世代リーダーを目指す女性のためのDX人材育成コース】

評価項目	自己点検 (実施状況・結果)	自己点検結果に基づく評価 (自己点検に対する判断・補足説明)	自己評価 <基準> S: 目標を大きく上回る成果を達成 A: 目標を達成し、計画どおり適切に実施されている B: 概ね実施されているが、一部に課題があり改善が必要である。 C: 目標達成が不十分であり、改善策の検討・実施が必要。
プログラムの目的・概要 (プログラム実施状況・カリキュラムの妥当性等)	・DXを推進しリーダーシップを発揮できる女性人材の育成を目的として、DX推進技術(Python、情報セキュリティ、AI・統計等)とマネジメント・組織開発(ファシリテーション、人材育成等)を融合した全10科目を完全オンラインで体系的に開講した。 ・授業には、大学教員のほか様々な実務家・実務家教員を配置し、グループワーク、プレゼンテーション、ソフトウェアの実習等を取り入れ、DX推進に関する理解、問題解決力やビジネススキル実践力養成を目指す体制とした。 ・受講生(23名)の1人あたり平均受講科目数は7.3科目であり、DXシステム概論(96%・22名)、Pythonプログラミング／DX推進事例研究／人材育成の導入理論(78%・18名)等で高い履修実績を記録した。 ・修了アンケートにおける目的達成度は「想定以上(38%)」「できた(14%)」「どちらかといえばできた(43%)」を合わせ、95%(20名)が達成と回答した。 ・授業アンケートでは、人材育成の導入理論、メンタルヘルス、DX推進のためのプレゼンテーション、DX推進事例研究、ファシリテーション等、実践や受講生同士の対話を取入れた科目で「大変理解できた」が約6〜7割と高評価を得た。一方、DXやICT・統計解析、プログラミングなど専門的・技術的な科目では「大変理解できた」は約3〜4割であるもの、各科目とも「大変理解できた」「理解できた」が約8〜10割であった。 ・受講生アンケートでは「DXのみならず組織心理学やマネジメントを網羅的に学べた」「Pythonを用いて実際に業務改善を達成できた」など高い実性が確認された。	・デジタル技術の習得と、リーダーシップや組織変革のマインド醸成を両輪としたカリキュラム構成が受講生ニーズに合致し、95%という極めて高い目的達成度に結果した。 ・技術習得(ITSSレベル2相当)とマネジメントの双方が現場の業務変革に直結しており、目標を上回る成果を達成したと判断できる。	S
教育成果 (科目の成績評価、修了者の状況等による評価等)	・2024年度入学者23名中21名が修了要件を満たし、修了率91%(21名)を達成した。 (第1〜2回生の平均修了率: 96%) ・業務改善への効果について、「大いに役立った(48%・10名)」「多少役に立った(38%・8名)」を合わせ、修了生の86%(18名)が実務での具体的な成果・改善効果を報告した。 ・職業観・人生観の変化では、「とても変化した(38%・8名)」「変化した(19%・4名)」「少し変化した(29%・6名)」となり、修了生の86%(18名)が肯定的な意識の変容を実感した。 ・Pythonを活用した業務自動化の実践、論理的思考力・SWOT分析を用いた社内DX提案の推進、組織内での自発的リーダーシップ発揮など、職場での行動変容が多数確認された。	・短期間(6か月間)のオンライン学修において91%の高い修了率を維持し、修了生の86%が職場での業務改善効果を実感した。 ・単なるITスキルの習得にとどまらず、組織変革を牽引するリーダーシップと実践的成果の創出に結果しており、目標を大きく上回る優れた教育成果を上げた。	S
受講生支援 (学修支援体制・支援状況)	・平日夜間や土曜の開講、オンライン授業(Zoom、一部オンデマンド)、LMS(manaba)の活用により、就労中の女性でも学びやすい環境を整備し、継続的な学び直しを支援する体制を整備している。 ・「Pythonで学ぶプログラミング」では、受講者への実習用PC貸与と体制を構築・運用した。また、アーカイブ録画配信および質問対応(授業前後のQ&A枠設定等)を実施した。 ・オンライン交流会、受講ガイダンス、他コースとの合同修了式を開催し、コミュニティ形成を支援した。 ・修了証および科目別のオープンバッジ発行体制を整備し、学修成果の可視化を推進した。 ・オンライン受講やアーカイブ配信等で、仕事や家庭と両立し学びやすい環境が整備されていた、キャリアアカウンセリングや受講生同士の交流を通じて、学修面だけでなくキャリア形成や心理的支援にもつながった等概ね高い評価が得られた。 ・修了アンケートにおける目的達成度で全体の95%(20名)が達成と回答し高評価が確認された。	・プログラミング初心者を含む多様な就労女性の学修継続支援のため、PC貸与や理解を深めるためのアーカイブ録画配信、きめ細やかな質疑応答対応をした。キャリアアカウンセラーによるキャリアアカウンセリングや受講者交流等の心理面も含め、支援体制に高評価が得られたと判断した。 ・オープンバッジによるデジタル証明や受講生同士のネットワーク支援など、充実した学習環境を提供し目標を上回る成果を達成した。	S
受講生の受け入れ	・定員25名に対し、2024年度(第2回生)の実績は説明会申込者69名、受験申込者26名、受験者24名となった。受験者全員に対しリカレント教育委員によるオンライン面接を実施した結果、入学者23名(定員充足率92%)を確保した。 ・2024年度受講生の属性は、平均年齢43.6歳、正社員比率91%、大企業(1,000人以上)勤務者が約4割を占め、首都圏に留まらず近畿、中部、中国・四国、九州・沖縄など全国から幅広く受け入れた。	・行政・企業連携を通じた広報等により、高い関心(説明会申込69名)を集め、定員の9割を超える入学者(23名・充足率92%)を安定して確保した。 ・概ね計画通り適切に受講生の受け入れを実施することができた。	A
広報活動 (受講生の募集・広報活動)	・パンフレットの作成・配布、大学HP、SNS(X、Instagram、Facebook)での情報発信、Web広告の掲載を行った。 ・出願要件であるオンラインの入学者説明会を幅広い時間帯に設定し、多く行った。 ・産官学で構成されるDX推進事業実施委員会(東京労働局、自治体、東京商工会議、企業等)でコース周知のための協力を得た。 ・2024年度修了生の57%(13名)が上司に、39%(9名)が同僚に受講を周知しており(上司・同僚ともに周知は6名。計76%)、所属組織内でのコース認知向上に寄与した。	・産官学の連携基盤およびオンライン媒体を含め計画された広報媒体を有効に活用し、全国規模での募集活動と安定した志願者確保を実現した。 ・計画に基づき適切かつ効果的な広報活動が展開されている。	A
組織運営・内部質保証	・全学の教員で構成されるリカレント教育委員会における履修・成績管理に加え、産官学連携によるDX推進事業実施委員会およびリカレント教育課程外部評価委員会を定期開催した。 ・リカレント教育課程外部評価委員会へ第2回生の教育実績および修了生アンケート結果を報告し、外部有識者からの意見を徴収した。 ・DX推進事業実施委員会において、受講生のアンケート結果の検証や委員企業・行政機関からの意見徴収(AI活用、プロジェクトリーダー育成、女性限定コースの意義等)を実施した。 ・継続的なカリキュラム改善に向けて、抽出された課題(演習時のレベル差、シラバスの実践的表現への改善等)を点検した。	・学内委員会、外部評価委員会、DX推進事業実施委員会の3層による点検・評価体制が構築・運用されている。 ・産官学のステークホルダーからのフィードバックを教育内容の改善へ結びつけるPDCAサイクルが適切に機能している。	A